大發
発行所
三池炭鑛労働組合
大牟田市本知火町
電話3033番
炭電 528 475 番
編集発行人　平島敏治
三鉱労組印刷工場

三鑛労組
機關紙

會社の頭上に鉄槌

共闘17万、整然とストに突入

六月十二日要求書提出以來二十數日、我々の平和的な解決の望みも四日の深夜に至つてはついに限界点に達した。我々の要求である一万九千五百円に対して、各社は頑迷にも足並を揃えて一万円前後に止まつている。三井に於ても最後案だとして一万三百円を出しつゝそぶいている。もはや平和的な交渉は会社の不誠意によつて断念せざるを得ない。傲岸不遜なる会社に対し猛省を促す爲、我々は中闘指令第三号に基き既定方針通り五日一番方より二十四時間の反覆ストライキに整然と突入し、實力を以て大鉄槌を下し最後迄闘う。職場の闘ひの波は益々もりあがつている。

△五日スト突入勢力＝共闘総人員十六万八千六百名、ストによる減産七万八千トン

會社 一万三百圓を提示

中闘「再考慮せよ」と一蹴

ストを目前に控えた四日午後九時これを一蹴し「再考慮せよ」と申入れた。然し会社は「最後的に努力した額なので組合もよく考慮してたれたが、席上会社は事態取捨と頂きたい」とゆずらず、交渉は決して一万三百円を提示、中闘はこ一蹴した。

一萬圓少して足踏み

中央ブロック各社の狀況

五日午前四時半現在中央ブロック各社の狀況左の通り。

△太平洋	一〇、三〇〇円
△井華	一〇、二〇〇円
△三菱	一〇、二〇〇円
△雄別	一〇、二〇〇円
△古川	一〇、〇〇〇円
△明治	一〇、〇〇〇円
△北炭	一〇、二〇〇円

他産業妥結分

各産業の期末手当のうち既に妥結を見たもの左の通り

▲私鉄 京阪神、京阪一、五〇〇、阪神一、三〇〇（何れも夏期手当は別途要求）

▲化学 三池合成一一、〇〇〇

▲紙、パルプ 日本紙一六、五〇〇（要求一八、〇〇〇）

▲電電機 三菱電気（中元手当）八、七四〇、富士電機九、〇〇〇、神鋼同六、二五〇、安宅英彦山神社に参拝、大護解法要と川岡一五、〇〇〇、他に増資配念五、〇〇〇

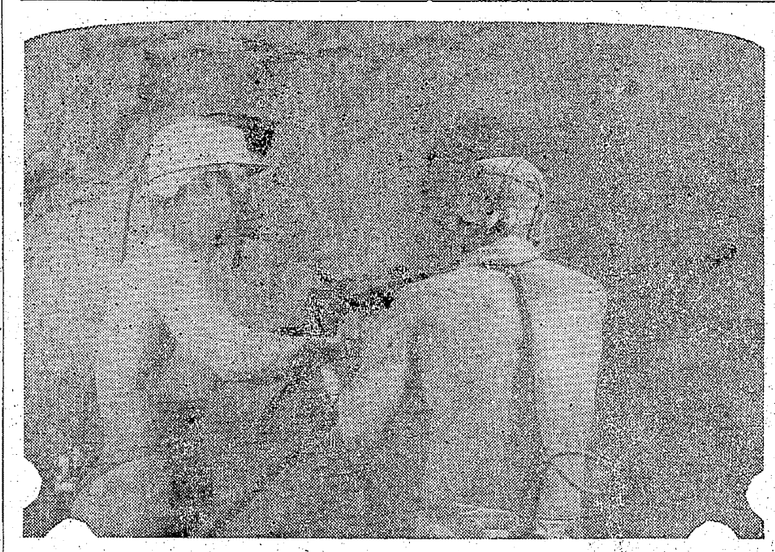
▲化繊 何れも据置

▲その他 日本皮革職員二七、七〇〇、工員一五、〇〇〇

見よこの成果を

保安週間終幕に近づく

七月一日より実施された全国保安週間は愈々七日を以て終了するが労働部並に会社、職組代表と共に



炭層をもとめて

——七月×日　三川鉱掘進現場にて——

中闘指令第三號

昭和二十七年七月三日　全國三井炭鉱労働組合連合會
中央闘爭委員長　円佛　寛

各單組闘爭委員長殿

期末手當の交渉に關しては、既報の通り組合の平和的な早期解決の誠意にも拘らず會社は徒らに遷延策を弄して來た。且つ七月三日正午迄の期限にて回答を求める申入に對して会社は何等の具体的意思表示もせざるにいたつては全く誠意なきものと断ぜざるを得ない。

第十三回中闘委員會は、事こゝに至つては最早や平和的解決はなし得ず強固なる團結と統制のもとに實力をもつて会社へ反省を促すより外に途なきものと決意した。

右に依り中闘委員会は次の通り指令する。

記

一、各單組は次の通り實力行使に突入せよ。

1、七月五日一番方より全山一齊二十四時間反覆無期限ストライキ（五日、七日、九日、十一日、十三日の如く奇数日スト）

2、保安要員については、指令第一号により確保せよ。

以上

解説

「第三勢力」とは

「多数講和か全面講和か」の講和論争から、最近は「再軍備」問題をめぐつての賠やかな「平和」論争は単に新聞雑誌の紙面上だけではない。二十世紀後半の世界史が如何に形成されるかという人類共通の課題を背景として、独立日本が今後如何なる歴史を自己のものとして選びとるか—民族の浮沈を賭けた問題である。

そのさし迫つた国内問題としては政治的には「反動か進歩か」「平和憲法」を守るか捨てるかを来る総選挙に決断をせまられている問題であり、経済的にはまた吾々が「欲しがりません勝つまでは」空き腹を抱えても、大砲の弾丸をせつせと造る決意をするか否かの問題なのである。

吉田さんは国民の「総意」に基ずく切なる願いということでサンフランシスコ講和と安保条約を結び、彼地では国民には滅多に見せたこともない御愛嬌まで振撒いて頻ぶる上機嫌であつたことは当時の新聞が報じている所である。「信頼と友情」に満ちた「寛大な和解の実体が何であつたか—それはアメリカ防衛のための軍事基地としてアメリカの世界政策に忠実に奉仕することを誓う限りに於ける独立であつた事、夫々日本国内での放送宣伝がどんなに誠幹を呈しようと否とに関わりなくアメリカ自身の平和条約批准議会に於ける議事録そのものが明らかに語つている茶番劇